

第一回

農産物検査員研修

山田錦鑑定の技術研鑽を目指して初めての研修

山田錦を検査する6団体の検査員14名が集合

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)



新潟県山田錦協議会は、新潟県の広範囲の生産者が参加しています。その為、農産物検査も6団体が関わりま

均一なレベルで格付けすることは、公正公平な観点で生産者の信頼が増えますし、実需者にとってバラツきのない玄米は酒造りの観点からも重要です。その為には、鑑定技



術の統一が不可欠で、団体・地域を超えての研鑽を実施しました。民間検査機関(JA・穀検・集荷業者)の所属・系列の違う検査員が集まること自体が珍しく、加えて特定の品種を集中的に学ぶこともまずありません。研修には(株)サタケ本社(広島県西条市)の穀物分析センターから専門家が参加。穀粒判定器と目視検査の違いや見方を指導していただきました。

第二回農産物検査員研修は8月に予定。その際には、山田錦の分析など、より具体的に研修をすることで検査

田植え後1ヶ月 淡路先生による圃場実地研修

○淡路先生からの指摘
茎数は十分

山田錦田植えから約1ヶ月経った6月18日、圃場実地研修を行いました。朝8時には、見附市アルカディアホールに集合。上越市や五泉市など遠方からの参加者も多く60名を超えたために、安全・迷子対策としてマイクロバスを手にしました。圃場研修は長岡市2カ所、見附市1カ所を巡回し、淡路先生から指導を受けました。

員のレベルアップを指します。

○硬質米で蔵元に喜ばれる山田錦を硬質米に育てるには、

取れているが、5葉の葉身長が短く、堆肥性がやや低い稲になっている」との指摘。又、「株の開帳が少ないために、茎がやや細くなっている」

その対策として、「9・5葉〜10葉までに中干しをして、深水管理で株を開帳させて茎を太くする」との指導がなされました。深水管理をすることで、「株全体を葉耳をそろえ、孫分げつまで親株と同じ太さが理想」に持っていく。



次回の淡路先生の指導は穂肥前の8月6日になります。詳細が決まり次第、ご案内いたします。

- ・葉色は10葉色期までにSPAD値37・0以下にすること。
- ・10葉期の稲姿は、朝圃場を確認し、圃場全体の葉が直立すること
- ・幼穂分化期(11葉期)の3日間は深水にすることで一次枝更を増や
- ・ケイ酸、微量元素資材の施用により、根量を増やして高温時に耐えられる稲体作りをしておくのが重要。

